

## 【水の作文大賞】

### 私の取り組み

玉名市立玉名中学校 二年 清田 友葉

私には、日々取り組んでいることがある。

それは、「コップうがい」だ。「えっ、それだけ？」と思う人もいるかもしれないが、私は、水という大切な資源を守る一つの方法だと考えている。それを一人一人が気を付けて取り組み、これからの未来は大きく変わらぬと思う。だから私は小さなことだが、「コップうがい」に取り組んでいる。

私が、「コップうがい」をしよう。と思ったのには、わけがある。それは、世界には、水が手に入らなかつたり、水が汚れていて飲めないという地域があると知ったからだ。そんな地域があるから、私たちは少しも、水という資源をむだにしてはいけない、と思ったからだ。

理由は、もう一つある。私はある日「お風呂ためてきて」といわれたいつものように、よくそうを水でながし、せんをした。つもりだったところが、私が「もうたまったかなあ」と思い始めたその時、「せんがしまつていません」というお風呂のアナウンスが流れた。私は思わず「えっ」

と、声をあげた。それと同時に、「なんで確認しなかつたんだろう。」「私は何リットルの水をむだにしてしまったんだろう。」ととてもかたくなくなった。「水の国くまもと」の大切な資源を私はものすごい量むだにしてしまったのだ。その日の風呂は、とても申し訳ない気持ちでいっぱいだった。でも、その日から私はその水を取り返そうという気持ちで、なにか方法はないかと考えた。そこで思いついたのが「コップうがい」だった。それをためてみると、手でうがいしたり、じゃぐちから直接水をふくんでうがいするよりも、むだになる水が少なくなると感じた。だから今も毎日コップうがいをうがいをつけている。そしてあと一つ気をつけている

ことは、手をあらう時には、まず手をぬらしたらしっかりとじゃぐちをしめてから、せっけんなどをつけてあらうことだ。これをまいにち「コップうがい」と続けられれば私一人でも、水のむだがかなりへっていくのではないかと感じた。「あたりまえではないか？」と感じているひともいるとおもうが、気を付ける前のわたしもそうだし、周りをみれば、コップをつかわずにうがいをしていたり、手をぬらしたあと、水をだしっぱなしにしたまま、せっけんやハンドソープで手をあらっている人が多い。それをまいにちしていたら、私がせんをしわすれたことのように水という「地球の宝もの」をむだにしていると思う。だから、水にたいしてまづもつとかん心もち、ありがた、という気持ちをもたないといけないと思う。時々、水による災害で命を多くの人がなくしてしまつたり、いろんなものをうしなうことがある。でも水からうまれるものも、それくらい多くあると思う。だから、もつと水のことを大事に思つてもいいんじゃないかなあと思う。私はその考えをもつと広めるために、今、まずは家族に「コップうがいしよー」と呼びかけている。また学校では、水をだしっぱでせっけんで手をあらっているひとをみたら、「とめるよー」といつて、水をむだにしないためのちよつとした取り組みをしている。ほんとにちよつとしたことかもしれないが、わたしは水という大切な資源を守れると思う。だから、これからも水を守るべく、ちーちゃん取り組みをつけていきます。